

目次

- | | | | |
|----|--|----|----------------------|
| P1 | 2022年度企画展
『希望 絶たれても なお ~重監房収監者の人生~』開催 | P3 | 映像に字幕を追加・修正をしました |
| P2 | 今年度もウォーキングツアーを開催します | P4 | 2021年度 来館者統計 |
| P2 | 歴史探訪「もうひとつの草津温泉」に寄せて | P4 | お知らせ |
| P3 | 活動近況 重監房跡地の維持管理 | P4 | お客様の声 (来館者アンケートより抜粋) |
| | | P4 | ご利用案内・アクセス |

2022年度企画展「希望 絶たれても なお ~重監房収監者の人生~」開催

重監房とは

みなさんは「特別病室」と聞いて、どのような病室を思い浮かべるでしょうか。

治療はなく、粗末な食事、零下20℃近くでも薄い布団が一組、日の当たらない部屋。それが国立療養所栗生楽泉園に1938(昭和13)年に設置された「特別病室」でした。ハンセン病患者への懲罰施設として運用され、1947(昭和22)年に廃止されるまで、のべ93人が収監され、そのうち23人が亡くなったと言われています。患者たちは「特別病室」を「重監房」と呼び、職員から「草津へ行くか?」「涼しいところへ行くか?」と言われると、震え上がったそうです。

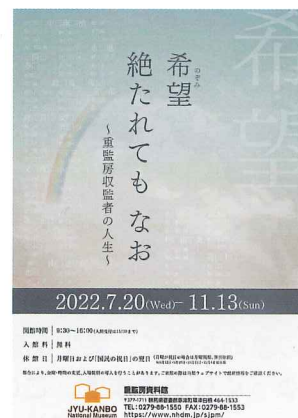
収監者について

のべ93人の収監者についての資料は乏しく、重監房に送られる前はどのような生活をしていたのか、重監房を生きて出たその後の人生がどのようなものであったのか、いまだわからないことが多くあります。この度の企画展では、収監者について新たに判明したことを常設展に加える形で展示します。

その一部をご紹介します。

1941(昭和16)年6月のことです。東京の全生病院(後の多磨全生園)から重監房へ収監された患者の山口さん(口は伏せ字です)は、園内洗濯場の主任でした。山口さんは洗濯場で働く他の患者たちと、穴があいた長靴を新しい長靴に交換してほしいと園に要求し、長靴がくるまで作業を休むと申し出て、休みました。それが「全生園騒擾」とされて、主任の山口さんは重監房へ送られることになったのです。妻の北口さんは、妻という理由(記録上は「全生園騒擾」)で、収監されました。

山口さんと妻の北口さんが夫婦ともクリスチャンであったことは、新たにわかったことです。重監房を出た後、山口さんは亡くなり、栗生楽泉園内のホーリネス教会で葬儀があげられました。妻の北口さんは転園した先でも教会に行かれ、お元気なうちは園内の洗濯場で働かれていたとのこと。



会期:2022年7月20日(水)~11月13日(日)
入館無料

絶たれた希望、絶たれた生命、そして、なおも生き抜いた彼ら彼女らの人生がありました。本企画展において、あなたのまなざしを向けていただければ幸いです。

◆担当学芸員によるギャラリートーク(事前申込不要)

- 8月 3日(水) 11:00~11:30
- 8月25日(木) 11:00~11:30
- 9月 9日(金) 13:30~14:00

当館第1展示室と第2展示室にて、企画展の展示解説を行います。

※都合により開催変更や中止となることがあります。その際には当館ウェブサイトでお知らせします。

◆オンライン配信による企画展展示解説(事前申込制)

- 11月11日(金) 13:30~14:30

当館ウェブサイトからお申込みください。

申込期間:10月1日~11月10日 16:00まで。

(松浦 志保)

今年度もウォーキングツアーを開催します。

今夏も重監房資料館はウォーキングツアー「初めてのハンセン病史 - もうひとつの草津温泉 -」を開催します。このツアーは、経験豊かで、話し上手なボランティアの案内で、草津町から重監房資料館までのハンセン病ゆかりの地を徒歩で巡ります。隠れた史跡を探訪するほか、重監房跡や楽泉園社会交流会館、資料館などを見学します。

開催日は7月23・30日、8月6・13日、9月17・24日の計6回、各回の催行人数は9人です。申込は電話で先着順、定員に達し次第メ切ります。見学コースや注意事項など詳細が決まり次第、当館ホームページでお知らせ致します。



歴史探訪「もうひとつの草津温泉」に寄せて

「特別病室」問題に特化した啓発施設として開館した重監房資料館ですが、恒例となった夏のツアーは、湯質日本一の観光地・草津温泉が元々もっていた湯治場としての本質や深淵に触れられるイベントです。「もうひとつの草津温泉」という謳い文句もそれを意識してのものです。

参加者は、バスターミナル至近の光泉寺、湯畑という草津温泉の中心を出発して、湯之沢集落跡やその墓地を経て、栗生楽泉園そして重監房資料館へと、ゆっくり歩きます。この道程で、時代の移ろいのなかで、湯治場を利用していたハンセン病者が、温泉中心部から湯之沢地区そして栗生楽泉園へと、外へ外へと押し出されてきた軌跡を辿ることができます。

ハンセン病問題と草津というお題を立てますと、どうしても近代に成立した湯之沢集落から学習を始めがちなのですが、湯治場としての草津温泉の成立は戦国時代に遡ることが確実です。ここでは少しだけ江戸時代の草津温泉に触れておきましょう。

湯治場として成立した草津温泉の元来の性格を一言で表すならば、アジール（＝無主の地）と言えるでしょう。それは世俗的権力が及ばない、いわば「神仏」が支配する「平等」の原則に貫かれていた場所であったといえるのかもしれませんが。

そのような場所ですから、江戸時代は湯治場を利用する人々には、貴／賤、富／貧、健常者／病者、敵／味方、老／若、男／女、美／醜の区別がない「混浴」が原則でした。ハンセン病を患っていても、わけ隔てなく入浴することができました。そして靈験あらたかな温泉は何人たりとも独占できませんから、宿屋にも内湯はなく、外湯（共同浴場）に入ることが原則でした。旅館でも病者も健常者も区別のない「混宿」が常識でした。

もちろん世俗の支配はあります。それは地侍である湯本家が執り行いましたが、江戸時代の草津ではアジールならではの「キヨメ」の役割を担った江戸弾左衛門支配の長吏小頭・湯の花屋三右衛門が活躍しました。

江戸時代の草津温泉は、寒さの厳しい冬季、温泉場は閉められました。湯治の甲斐なく、病気も治らず、お金もなく、帰る家もなく、冬を迎えてしまう病者もいたでしょう。そのような「旅行病者」は温泉場が閉じる時に「地獄谷」「骨ヶ原」に生きたまま葬り去られたと伝えられています。その仕事も三右衛門が担い、これもある意味で「キヨメ」です。三右衛門によって「キヨメ」られて、再生した温泉場に翌春、新しい湯治客を招くというわけです。この「キヨメ」を執り行うことで、三右衛門は草津温泉で採れる「湯の花」を専売する特権を与えられていました。

台頭した世俗的権力（町衆）との争議に敗れた三右衛門が草津から退転した後、「地獄谷」「骨ヶ原」に拓かれたのが、ハンセン病患者たちの自治が行われた近代の湯之沢集落でした。新興の町衆が湯畑を中心にした温泉場を支配してゆく過程で成立した病者の「下町」です。

その湯之沢集落が開拓された際に多くの人骨とともに見いだされたと伝えられる供養塔があります。石塔には「南無阿弥陀仏」「施主湯花屋三右衛門」「文化一三年（1816年）」と刻まれています。三右衛門が「地獄谷」に葬った方々を供養したものです。この石塔は現在も湯之沢集落の墓地にあり、ツアーでも見学します。長吏・三右衛門の存在を示す、江戸時代の草津温泉に思いを馳せるのに大事な一品です。普段はなかなかアクセスする機会のない資料ですので、是非、この機会にご覧いただければと思います。

（黒尾和久）

活動近況 重監房跡地の維持管理

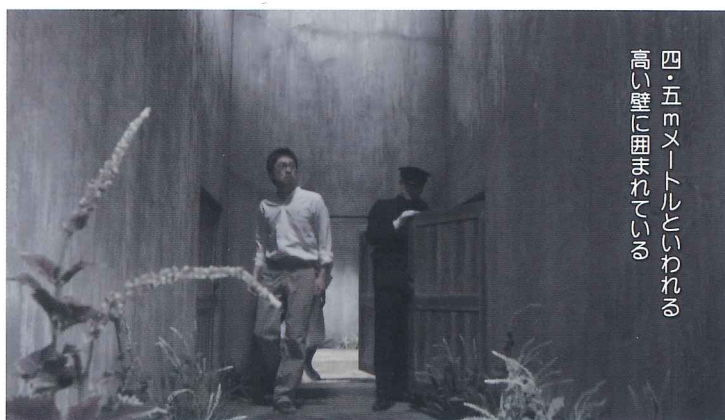


重監房跡地は、栗生楽泉園正門奥の、普段、人が立ち入らない山林の中にありますが、少し日にちを置くと、その様相はたちまち変わってしまいます。落ち葉、雑草、樹木の枝の張り出し、動物の足跡等々、自然の勢いには驚くほどです。また、風雪、気温など、激しい気象の振幅は、放っておくと重監房跡という大切な歴史展示資料を破損しかねません。以前には、重監房跡のモルタルの基礎のひび割れ防御用樹脂の注入塗布や、雑草を防ぐための防草シートの敷設といった処置を施したことはありましたが、やはり、普段からのスタッフによる地道な清掃、維持管理こそが最も大切です。季節ごとにほうきやブ

ロー、刈払い機を手に取って清掃を行い、消毒剤も散布します。台風などの嵐の後には、倒木の被害が出ることもあり、見学者の方たちが入る見学用デッキ、通路の危険個所の点検も必須です。展示、資料保全面からも、お客様への安全面からも、日ごろからのスタッフの重監房跡地への管理意識は欠かせません。



映像に字幕を追加・修正をしました。



四・五メートルといわれる
高い壁に囲まれていた

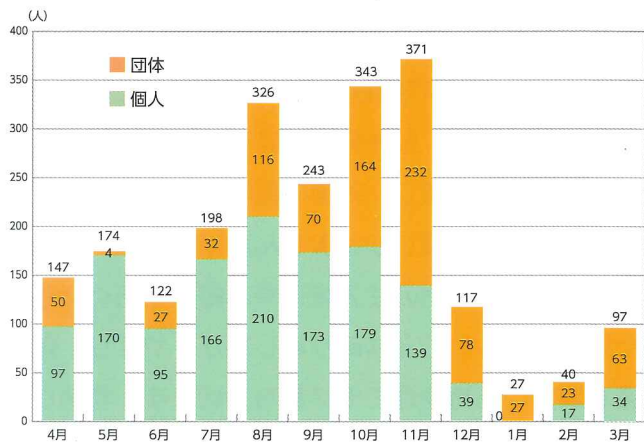


今も重監房の跡地から
聞ける足音だ

当館の展示の主役ともいえるべき2つの映像のうち、第1展示室の再現映像には字幕がなく、このほど、映像字幕を追加しました。来館されるお客様には、お年寄りや、耳のご不自由な見学者の方も多く、そしてそれ以外のお客様も、縦位置の文字数の少ない字幕により、映像のデリケートな内容を、よりわかりやすく把握できるようになりました。また、レクチャー室でご覧頂くガイダンス映像には、当初から字幕があったのですが、開館9年目に入り、登場人物の説明などに現状にそぐわない箇所が出てまいりましたので、こちらも一部修正を行いました。聴覚にご不便をされているお客様はもちろん、多くの見学者に展示内容を正確に理解して頂けるよう、今後も随時、他の展示も含めて、不足な部分を検証、見直しを進めてまいりたいと思っております。

(香川 進司)

2021 年度来館者統計



2021 年度入館者数

延べ **2,205 人**
 1 日平均 **7.6 人**
 開館以来延べ **43,600 人**
 ※臨時休館：1 月 18 日～1 月 30 日（館内工事）

ホームページアクセス数

2021 年度 **47,478 回**
 開館以来延べ **366,760 回**

お知らせ

■新型コロナウイルス感染拡大防止のための、来館者の皆様へのお願い

重監房資料館では新型コロナウイルス感染防止のために、館内の見学者を常時 10 人までに制限させて頂いておりましたが、4/26(火)のフルオープン期間開始日から、常時 50 人までに、開館時間も 9:30～16:00（最終入館 15:30）に、それぞれ変更させて頂いております。

ご不明の点は、お手数をおかけしますが、重監房資料館までお問合せください。

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

◎ハンセン病について理解できました。草津温泉誌を 2 度読みました所、江戸時代以降ハンセン病患者の居住地が転々としてきたことに関心を持っていました。最も良い栗生楽泉園の将来は？と考えさせられます！
 （群馬県、77 歳・男）

◎知らなかった事実を知る事ができ、良かった。栗生楽泉園の見学もしたいので、また来ようと思います。映像の中の温泉ホテル事件での差別ハガキを見て、差別をしたのは私たち（大多数の一般人）である事を実感しました。
 （石川県、51 歳・女、自営業）

◎改めて、教師として、人として、伝え続け、学び続け、共に考え続けていかななくてはならない、考えていきたい課題と感じました。最近ではコロナ関係の職業差別、患者差別、家族に対する差別がありました。知らないことは誰も恐れるのですが、知ろうとすることは忘れてはいけないと強く思いました。貴重な実物、生の声、今も活動を続ける多くの人の姿に触れられたこと、ありがとうございました。
 （東京都、31 歳・女、教師）

◎人間の差別は無くならない。病気、生まれなど。これでは戦争もなくなる。
 （愛知県、59 歳・男、会社員）

◎悲運だが、希望を持っている人もいてよかった。
 （石川県、48 歳・男、会社員）

◎ハンセン病について、「病」そのものと差別について知ることができた。入所の方が高齢であるので、こうやって色々な人に知らせる為の施設は有意義だと思います。
 （埼玉県、40 歳・男、会社員）

ご利用案内・アクセス

■開館時間 4/26-11/14（フルオープン期間）：9:30～16:00

11/15-4/25（冬期予約期間）：10:00～15:30（団体、個人とも完全予約制）

■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日無

■入館料 無料

■交通案内 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約 25 分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分

車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分

（草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先 200m の未舗装路をお入りください。）

重監房資料館「くりう」第 20 号【季刊】

発行日：2022（令和 4）年 7 月 10 日／企画・編集・発行 重監房資料館／URL：<https://www.nhdm.jp/sjpm/>

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553